

# 大阪湾漁場環境速報

平成31年4月4日発行  
兵庫のり研究所

スケルトネマを主体とした複数種の小型珪藻が湾奥を中心に非常に多く発生しており、その海域においては一部を除き栄養塩（窒素・リン）が著しく低い値となっています。明石海峡部周辺海域において珪藻は少なく、窒素は $2\mu\text{g-at/L}$ 前後でした。

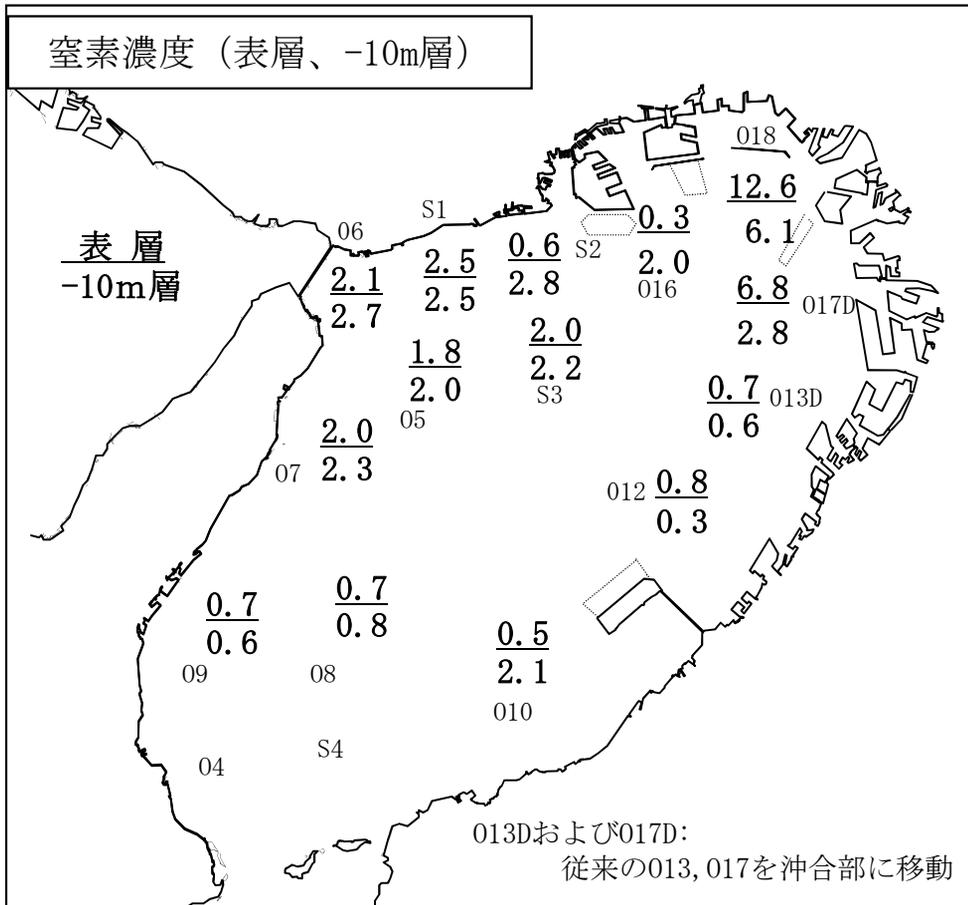
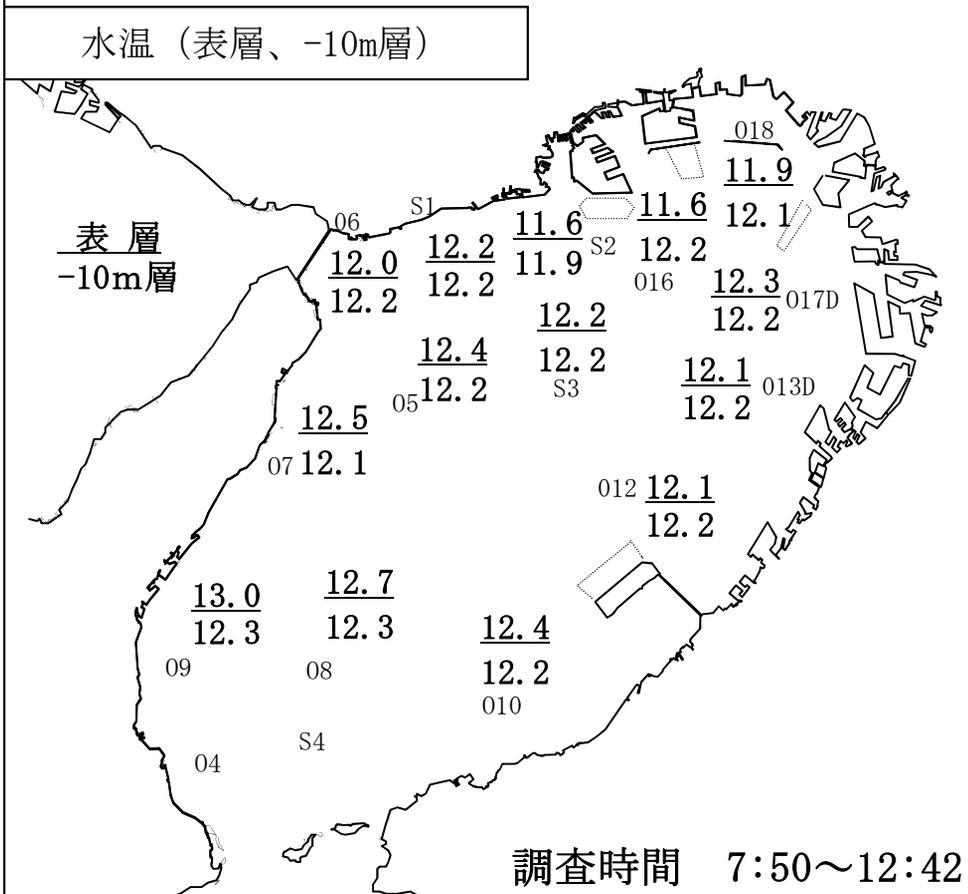
(水温) 表層は湾内11~13℃台で、平均12.3℃。平年比約0.2℃高い。-10m層は平均12.2℃で平年比約0.7℃高い。

(塩分) 表層平均32.25psu(平年 31.16)。-10m層平均32.52psu(平年 32.07)。

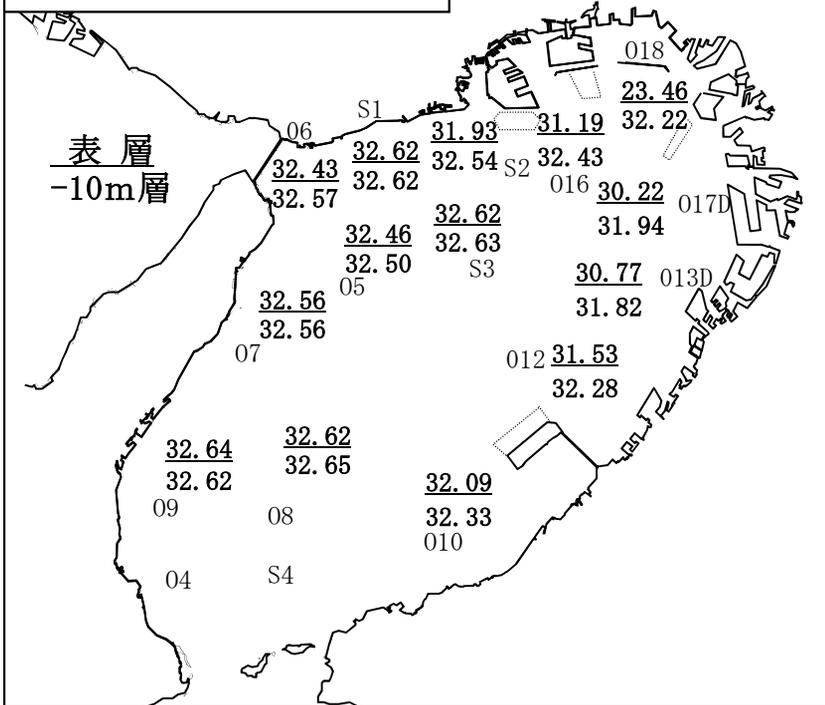
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均 $1.3\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.16\mu\text{g-at/L}$ 。-10m層の窒素は平均 $1.8\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.21\mu\text{g-at/L}$ 。湾奥ではスケルトネマを主体として、ニッチアやレプトシリンダラス等複数種の珪藻が非常に多く発生しており、強い(茶色の海水)赤潮として確認された。和田岬沖から関西空港南にかけてもこれら珪藻が多く、その海域では栄養塩が著しく低い値を示した。須磨以東や神戸沖、淡路東浦北部にかけての海域では珪藻はわずかに確認される程度と少なく、窒素は概ね $2\mu\text{g-at/L}$ 台の値を示している。

上段 (今回値)	平成31年4月3日調査
中段 (昨年値)	平成30年4月2日調査
下段 (平年値)	4月上旬

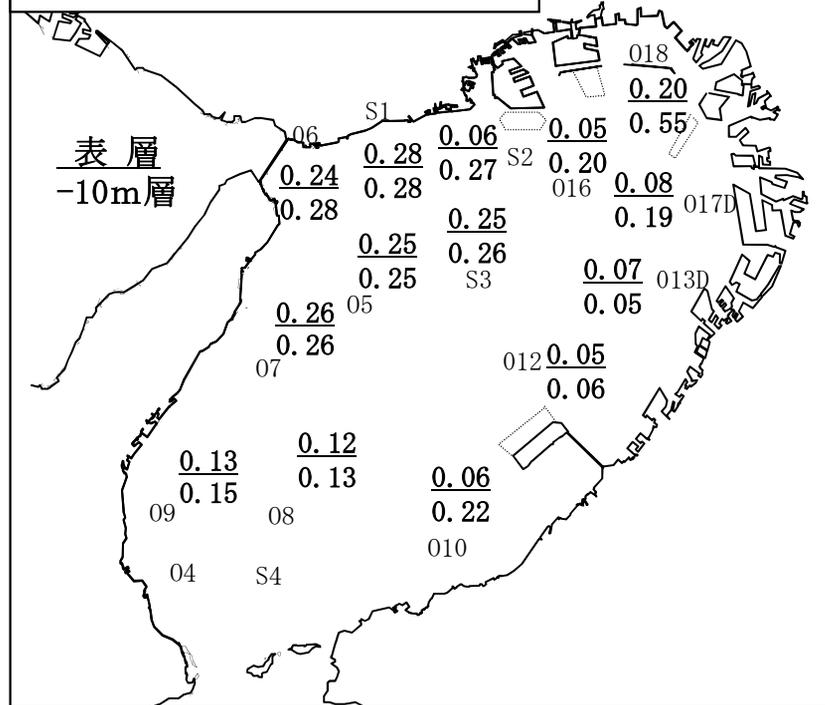
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ( $\mu\text{g-at/L}$ )	磷酸 ( $\mu\text{g-at/L}$ )
04	12.2	32.38	2.6	0.15
	12.7	32.58	3.5	0.30
05	12.4	32.46	1.8	0.25
	12.2	32.02	1.7	0.18
06	11.7	31.98	2.4	0.23
	12.0	32.43	2.1	0.24
07	11.3	31.94	1.7	0.19
	11.5	31.21	3.5	0.22
08	12.5	32.56	2.0	0.26
	12.2	31.17	1.3	0.10
09	12.1	31.80	1.8	0.20
	12.7	32.62	0.7	0.12
010	12.0	32.06	1.5	0.12
	12.4	31.90	1.8	0.20
012	13.0	32.64	0.7	0.13
	12.5	31.55	1.5	0.12
013D	12.5	31.98	5.8	0.38
	12.4	32.09	0.5	0.06
016	12.5	30.91	0.8	0.06
	12.2	31.25	0.9	0.10
017D	12.1	31.53	0.8	0.05
	13.3	29.41	2.3	0.07
018	12.1	30.15	1.6	0.09
	12.1	30.77	0.7	0.07
S1	12.4	29.85	1.3	0.10
	12.0	29.67	1.9	0.09
S2	11.6	31.19	0.3	0.05
	12.7	28.99	1.2	0.08
S3	12.0	28.13	7.2	0.12
	12.3	30.22	6.8	0.08
S4	12.7	28.39	5.2	0.10
	12.2	27.46	20.3	0.29
013Dおよび017D	11.9	23.46	12.6	0.20
	14.9	17.45	24.8	0.17
017D	12.8	21.81	31.7	0.43
	12.2	32.62	2.5	0.28
018	12.1	30.28	1.0	0.07
	11.7	30.37	3.9	0.16
S1	11.6	31.93	0.6	0.06
	12.3	29.92	2.2	0.08
S2	11.7	29.70	2.0	0.09
	12.2	32.62	2.0	0.25
S3	11.6	31.61	0.8	0.12
	11.8	31.66	1.5	0.17
S4	12.1	32.19	1.3	0.11
	12.5	32.36	2.0	0.20



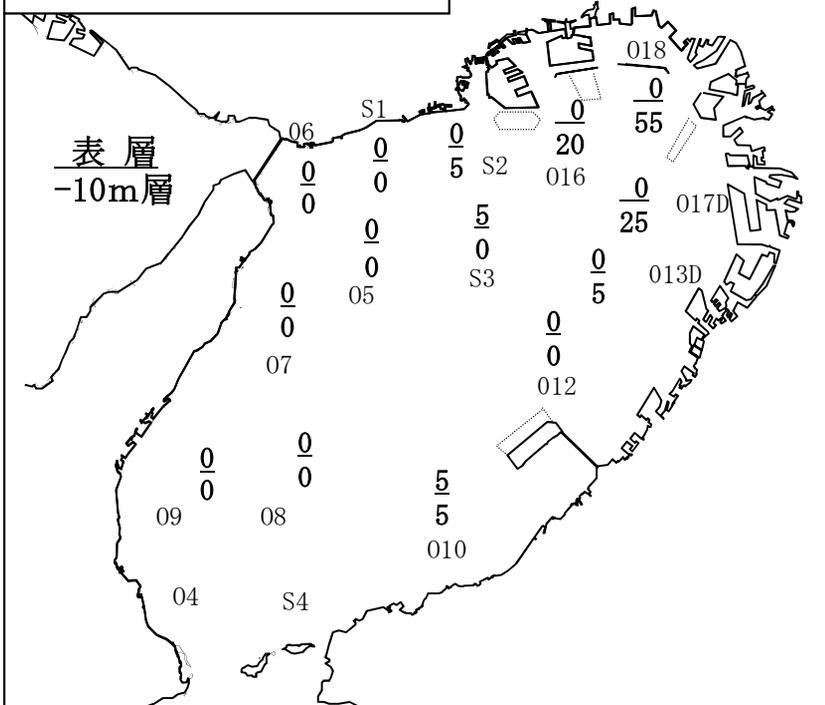
塩分 (表層、-10m層)



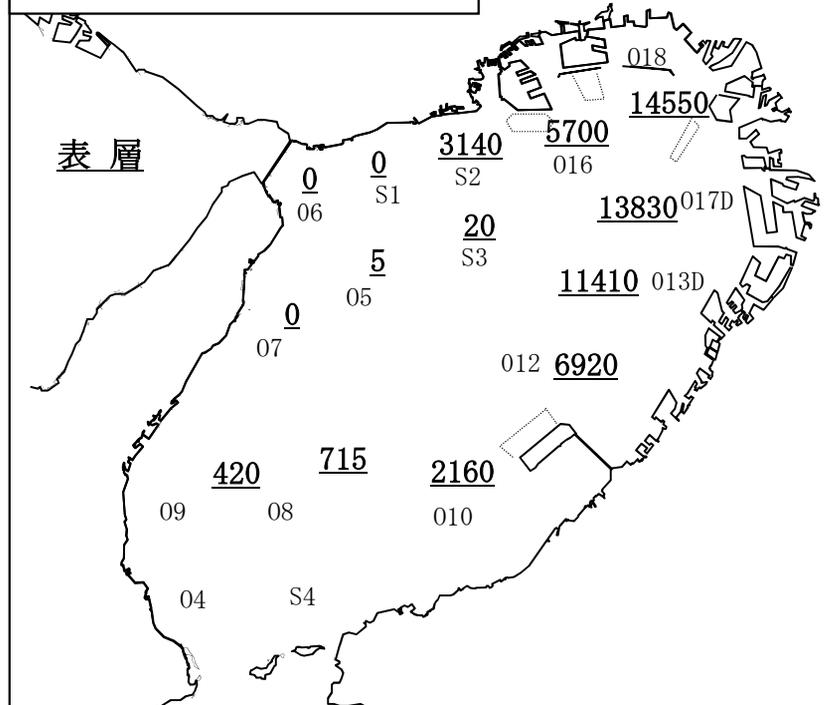
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

